

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第3報(2018年6月19日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

4月下旬に移植した早生品種「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂形成期を迎えています。中干しを終了してください。4月以降は平均気温が平年より高く、5月下旬以降気温が平年並に推移したため、生育の進み具合は平年並かやや早いです。また、茎数が多いほ場も見られますので、生育に応じた管理を行ってください。

### 参考 生育調査ほの調査結果 (調査日 6月15日)

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂 形成期
ふさ おとめ	山武市 (白幡)	30	4/26	11.4	44.0	29.0	623.5	42.9	5.3	(6/19)
		29	4/26	10.7	41.0	25.9	608.7	39.7	4.9	6/20
		平年値	4/28	10.2	48.0	26.6	470.1	41.0	5.1	6/17
ふさ こがね	山武市 (成東)	30	4/26	10.4	52.3	32.6	602.5	42.1	5.2	(6/16)
		29	4/25	9.7	48.4	29.7	549.5	38.5	4.8	6/15
		平年値	4/30	9.9	46.7	29.6	546.7	38.4	4.8	6/17
コシ ヒカリ	東金市 (幸田)	30	5/3	10.1	54.0	25.9	461.0	42.5	5.3	-
		29	4/28	10.0	48.0	20.5	385.4	36.5	4.5	6/28
		平年値	4/24	9.7	52.3	30.0	530.4	41.2	5.1	6/27
コシ ヒカリ	山武市 (成東)	30	4/26	9.8	52.2	32.2	595.1	39.9	4.9	-
		29	4/25	9.0	49.7	31.0	573.5	34.6	4.3	6/23
		平年値	4/30	9.2	44.7	30.3	560.0	40.7	5.1	6/24
ふさの もち	山武市 (成東)	30	5/10	9.2	42.5	31.5	583.3	42.4	5.3	-
		29	5/10	8.6	33.9	29.5	545.8	36.1	4.5	6/30
		平年値	5/9	8.7	38.1	28.6	529.8	40.4	5.0	7/2

平年値は過去10年間(ふさのもちちは8年間)の平均値。H30年度の幼穂形成期( )は推定日。

### 【飼料用米】

品種	場所	年	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂 形成 期
アキヒカリ	山武市	30	4/27	58.5	32.2	573.2	46.2	5.8	6/12
夢あおば	山武市	30	5/13	53.0	24.8	404.2	48.6	6.1	-

飼料用米の受付は6月末日までです。

### 郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXへ切り替えを進めています。電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 山口 k.ymgch87@pref.chiba.lg.jp、 0475-54-0226 (電話)

## 今後の管理

### 1. 水管理

4月移植の「ふさおとめ」や飼料用米「アキヒカリ」は幼穂形成期を迎えています。中干しを終了してください。

幼穂形成期から出穂期にかけては、低温および高温の影響の受けやすい時期となります。特に平均気温が20℃以下の低温が続くような場合は可能なかぎり深水で管理してください。飼料用米の「アキヒカリ」や「初星」、「夢あおば」などは低温に弱い品種であるため、は特に注意が必要です。

### 2. 穂肥

穂肥の適期は幼穂形成期の1週間後（幼穂長5mm～1cm）です。一発肥料を使用していない方は、「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂を確認し、適期に穂肥を行いましょう。

飼料用米（多収品種）は葉色を濃く推移させることが多収のポイントになります。葉色が薄い場合は追肥を行い、葉色を落とさない管理を心掛けてください。

## 省力的な剤型の水田除草剤の特徴と処理上の注意点

水田除草剤は散布後に水田で拡散しやすい省力的な剤型が出てきています。これらの剤の除草効果を上げるには、水管理を適切に行うことが最大のポイントとなります。

### ○ ジャンボ剤

水田に30～50g程度の小包装（パック）のまま投げ入れるので省力的なうえ、幅30m以下のほ場の場合は畦畔から散布可能です。多少風があっても散布出来、周辺への飛散もほとんどありません。

### ○ 豆つぶ剤

通常の粒剤と異なり拡散しやすい粒剤のため、幅40m以下のほ場では畦畔からの手散布が可能です。幅100mまでのほ場なら、背負い動噴を使って畦畔からの散布が可能です。

#### 〔ジャンボ剤・豆つぶ剤使用のポイント〕

- ① 散布時の水深は5～6cmと深めにし、水の出入りを止める。  
水深が浅いと薬剤の拡散が不十分となり効果が劣る上、薬害の原因にもなる。
- ② 藻類や表層剥離が多発していると拡散が不十分になるので、藻類の発生前の早めの散布とする。
- ③ 散布後少なくとも3～4日間は水深3～5cmを保つ。自然減水により田面が露出しそうな場合はゆっくりと入水して水深を保つ。処理後7日間は落水せず湛水状態を維持する。
- ④ ジャンボ剤のパックは水溶性なので、濡れた手で使用したり、雨に当たると袋が破れるので濡らさないようにする。
- ⑤ 豆つぶ剤は1か所に2握り以上大量に投入すると薬害が発生する恐れがあるので注意する。

次回の情報は6月27日（水）に発行する予定です。